

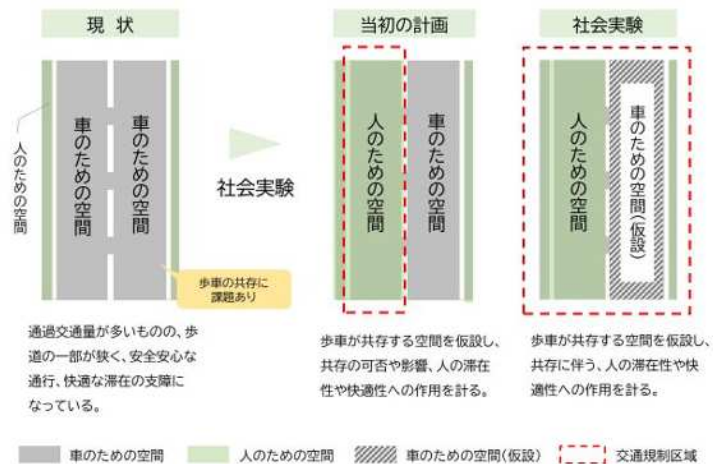
「居心地の良いウォーカブルなまちなか」に向けた社会実験を実施

市では、「本庄駅北口周辺整備基本計画」に基づき、本庄駅北口周辺における「居心地の良いウォーカブルなまちなか」の実現に向けた取組を進めています。

この度、「基本計画」でウォーカブル推進道路と位置付けている「銀座通り」において、まちなかに賑わいをもたらす「人のための空間」と「車のための空間」のあり方を検証する

ために、社会実験を実施します。今回の社会実験では、来場者の安全性を確保するために、車両の通行を規制しますが、会場内を「人のため」と「車のため」、それぞれが共存する空間と見立て、現状より「人のための空間」を増やした銀座通りでの滞在性や快適性を検証します。

社会実験における道路空間活用のイメージ



- 日 時：11月23日（木・祝）
午前10時～午後4時
- 会 場：銀座通りの一部
- 内 容：銀座通りの道路空間を活用したマーケットを開催
- その他：詳細はSNSでお知らせします。
- 交 通：銀座通りの一部が通行止め（午前9時～午後5時）となります。迂回にご協力ください。



Instagram



Facebook



問合せ先

- 本件記事に関すること 都市整備部 市街地整備室 担当：福島・大野・渡辺
電話：0495（25）1138
- 広報全般に関すること 企画財政部 広報課 担当：飯塚
電話：0495（25）1155

社会実験会場における次世代モビリティの展示について

◆趣旨・目的

「歩きたくなる居心地に良い、ウォーカブルなまち」の実現に向け、まちなかに走る道路空間の見直しを進めています。

しかしながら、現状を見ると、車道には多くの車が通る一方、人のための空間である歩道が狭いなど、まちなかにおける「人のための空間」には課題があります。本庄市は、依然、車による移動に依存した「車社会」であり、人々の暮らしから車を完全に排除することは現実的ではありません。そこで、車と人が共存しながらも、まちなかに「人の居場所」を増やす方向での検討が求められています。

そこで、11月23日(祝)に開催する、銀座通りを会場とする社会実験では、未来のまちなかをイメージした、歩車共存した仮想空間を作り出します。今回は、歩行者の安全性を確保するため、モビリティを走行させることはできませんが、次世代のモビリティと人が共存する、未来のまちなかを体感いただきます。



▲ウォーカブルなまちなか(イメージ図)

◆展示予定車両

① パーソナルモビリティ(3台)

「特定小型原動機付自転車」 例 電動キックボード

- 道路交通法の改正により、公道走行が可能(R5.7.1～)
 - 運転者:16歳以上、免許不要
 - 車体の大きさ:長さ190cm以下、幅60cm以下
 - 定格出力0.60キロワット以下
 - 時速20kmを超える速度が出ない(走行中の最高速度変更不可)
 - オートマチック・トランスミッション(AT)
 - 展示協力:カベミミデザインズ 代表 庄司拓郎様
- ・IOC 本庄早稲田ビジネスプラットフォーム内に事務所を構え、工業団地(神川町)内の研究所において、次世代モビリティの開発研究を進めている。

・早稲田大学小野田教授による「本庄早稲田モビリティ共創プロジェクト」にデザイナーとして参加(2022.5~)



次世代モビリティ (Howdy ASSIST)
免許不要
時速: 6 km/h

1台展示



次世代モビリティ (Howdy TRANS)
時速: 6 km/h、20 km/h
(スイッチにより切り替え可能)

②市公用車「電気自動車」(1台) ek ワゴン

- 大容量バッテリーを搭載し、供給される電気を動力に走行する軽自動車
- 市キャラクター「はにぼん」がデザインされたデザイン
- 災害時の非常用電源や、屋外イベントでの電源としての活用も可
- 「ゼロカーボンシティ」に向けた市の取組に賛同いただいた市民の方から寄付された車両(R5.5.24 贈呈式)

